

令和6年度 授業改善推進プラン(全体計画)

36大田区立北桃谷小学校

- 教育基本法○学校教育法
- 学習指導要領
中央教育審議会の答申
- 東京都教育委員会教育目標
東京都教育ビジョン
東京都教育施策大綱
- 大田区教育委員会教育目標
おおた教育ビジョン

学校教育目標

- 元気な子 ○よく考える子
- 仲よくする子 ○はたらく子

OBANI※な時代を生きる

- 学校、地域の実態
- 地域・保護者の期待や願い
- 期待される児童像

授業改善に向けた全体の方針

「主体的に取り組む児童の育成～キャリア教育の実践と評価～」を研究主題とし、**未来につながる授業を実践する。**
次のプロジェクトチームを活用して組織的に授業改善を図る。

- プロジェクトC(キャリア教育を重点に)
 - ・各教科、総合的な学習の時間、学校行事等、往還的に実践できるようにカリキュラム・マネジメントする。
 - ・**5・6年生では、独自教科おおたの未来づくりの資質・能力、1～4年生ではその素地づくりを行う。**
 - ・学級活動、学校行事等、特活を要にして主体的に学ぶ力の育成、非認知能力を高めていく実践を行う。
 - ・協働的な学びを効果的にを行い、人間関係形成の力を高める。
- プロジェクトA(学力向上を重点に)
 - ・**個別最適な学びの場**を設け、学力の定着や、学習意欲の向上を図る。
 - ・ICTの効果的な活用を推進する。
 - ・外部企業と連携してロジカル思考(論理的思考)を育てる。
 - ・**学年便りや掲示物をで啓発する。**
 - ・本校独自の「家庭学習のすすめ」を基に家庭学習を推進し、自ら学びに向かう力を育てる。

道徳教育の指導の重点

- 全教育活動を通して、心のふれあいを重視する。考え・議論する道徳科の授業実践を通して自己の考えを深め道徳の実践力を育てる。
- 「道徳授業地区公開講座」をとおりて、家庭・地域との連携を図る。

特別活動の指導の重点

- 特活を要にキャリア教育を推進し、主体的に取り組む力を育成する。
- 多様な集団活動をとおりて、人間関係形成、自己実現、社会参画等の資質・能力を育てる。
- 合意形成を図ったり、意志決定したりすることができるようにする。
- 教科等と関連させ、汎用的な力、学びに向かう力を育成する。**

生活指導の重点

- 児童理解を深め一人一人の児童のよさを認め、褒めて伸ばす指導を行う。
- コミュニケーションの源となるあいさつの指導を継続していく。
- 本校独自の「みんなの10の約束」及び小中一貫教育桃谷中学校区「学習・生活スタンダード」「タブレット10の約束」の指導を行い、望ましい生活態度を育てる。

各教科の指導の重点

- ICTの活用、個別最適な学び、協働的な学びを意図的に取り入れ、学力の定着や学びに向かう力を育てる。
- 高学年では教科担任制を実施し、より専門的に学ぶ機会を増やす。
- 振り返りや繰り返しの学習が、次の学習意欲につながるようにする。

総合的な学習の時間の指導の重点

- 自ら課題を見付け、主体的、創造的、協働的に取り組む態度を育てる。
- 各教科等と**往還の問題解決**を図ることができるようにする。
- 学んだことを生活の中で実践していこうとする態度を育てる。

進路指導の重点

- 児童が自らの目的をもち、主体的に生活できる基礎を培っていく。
- キャリア教育を重視し、**外部人材を活用し**、自己の生き方について考えさせ児童の自立への意欲を高める。
- 小中の共通目標を見直し、授業改善を実施する。また、6年生の部活体験、体験授業等を計画的に実施する。

本校の授業改善に向けた視点

※B 脆弱性、A 不安、N 非線形性、I 不可解さ

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
・全教育活動で、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る。 ・問題解決的な学習や体験的な学習をとおりて試行錯誤しながらも自ら解決していく展開とする。 ・タブレット端末を活用してステップ学習やドリル学習(タブドリ)の日常化を図る。 ・長文、問題文、地図、表やグラフ等の資料を正確かつ多面的に読み取ることができるように、教材や発問等を工夫する。特に社会科では、資料の読み取りを重点におく。 ・書く・聞く・話すこと等は国語科だけではなく全教育活動をとおりて指導の場を設け育成する。 ・理科では、結果を振り返る時間を充実させ、実生活と結び付けることができるようにする。	・高学年では、教科担任制(英語・社会・理科・体育)を実施する。 ・カリキュラム・マネジメントを行い、STEAM教育を推進する。その際、見学や体験的な学習、外部人材を有効活用する。 ・全校で基礎学力向上タイムを設定し、東京ベシックドリル・診断テストやICTを活用したドリル学習等を実施する。 ・読書学習司書と連携し授業と関連した並行読書や読書の日常化を図る。 ・補習教室では、個別最適な学習となるよう学習補助員と連携する。 ・学習したことを発表したり実践したりする協働的な学びの場を設ける。 ・全校では「未来づくりフェスティバル」を実施し探究と創造を繰り返し学びに向かう力を育てる	・「主体的に取り組む児童の育成」を主テーマにキャリア教育を推進し、「学力の向上」と「非認知能力の向上」双方からテーマに迫り、学びに向かう力を高めていく。1月には研究発表会を行う。 ・全教員が自己理解・自己実現の研修を受け、児童のキャリア形成能力の育成に役立てる。 ・おおたの未来づくり科の実践に向けた地域、外部企業との連携や研修を工夫する。 ・授業観察日は授業改善推進プランに基づいた授業を公開し、授業改善のPDCAサイクルを確立する。 ・小・中9年間を見通した授業改善推進プランを推進し、11月には、本校で検証授業を実施する。 ・主幹・主任教諭による校内OJT研修を行う。	・研究サブテーマを「評価と実践」とし、評価の在り方について実践をとおりて追究していく。 ・通知表は年間2回。補助簿を作成し、児童の努力や過程を大切に評価していく。 ・振り返りの時間には、自己評価や相互評価を行い、成果や新たな課題等について記録し、次につなげる。 ・区・学習効果測定の結果、通知表、キャリア・パスポート等を活用し、学校と家庭がこどもの成長を共有する。 ・自己評価及び学校関係者評価では、取組の指標を示し評価を行う。 ・学校公開後には、QRコードを活用し「保護者アンケート」を実施し、結果を生かして授業改善を行う。	・夏季三者面談を行い、区・学習効果測定の結果や1学期の学習活動の結果等を基に学習力カウンセリングを行う。 ・家庭でのタブレット端末の活用を充実させる。 ・学期に1回、学年便りにて家庭学習に関する記事を掲載する。 ・学校公開やホームページを活用し、本校の教育活動への理解を深める。 ・独自教科「おおたの未来づくり科」や、夏のわくわくスクール、生活科総合的な学習の時間等で地域や企業の教育力を生かしていく。 ・放課後ひろばとの連携を図り、家庭で学習できない環境の児童への対応を丁寧に行う。 ・コミュニティスクールとして、地域とともに教育活動の充実と改善に努める。